

和歌山病院で高校生が看護体験

あしがれをさらに強く

美浜町の独立行政法人国立病院機構和歌山病院で25日、夏休み恒例のふれあい看護体験が行われ、日高高校や紀央館高校の女子生徒12人が看護師の仕事を経験した。同病院には県内で数少ない重症心身障害児(者)病棟(重心)があり、生徒たちは意思疎通が難しい患者とも笑顔でコミュニケーション。「きょうの体験でますます看護師になりたいという思いが強くなりました」と話していた。



「いちごつなまでした」重心病棟の患者とふれあう高校生

拭や洗髪、足浴を手伝い、重心病棟ではスキップなどコミュニケーションのとり方を見学し、実際におやつを介助したり風船遊びでふれあった。

紀央館高校3年の古てくれました。患者さん川ひかるさんと耐久高んの方も楽しんでいました。校3年の若林寛子さん「はともに見護師になりたいと考えており、あこがれの白衣に「うれしいです」と笑顔。「いろいろな患者さんがいて、話しかけるのも緊張しました。でも、笑ってもらえたらうれしいし、すごく楽しい時間でした。ますます看護師になりたい気持ちが強くなりました」と話し、重心ふたば病棟看護師長の後藤純子さんは「ここは特殊な病棟ですし、入った瞬間は緊張があったと思いますが、2人とも子どもが好きということ、で、を回り、入院患者の清

ふれあい看護体験は、看護の仕事への理解を深めてもらうことを目的に、日本看護協会などが高校生や主婦ら一般市民を対象に参加者を募集。和歌山病院は毎年夏休みに県内の高校生らを受け入れており、ことは日高高校2人、紀央館高校7人、耐久高校3人の12人が参加した。

午前中はオリエンテーション、病院の説明に続き、血圧測定や車いすでの患者の移動介助、AEDの使い方などを実習。午後は看護師について一般病棟

すごくいい笑顔を出し